

◇「新たな墨田区立学校の適正配置等について（中間答申）」に対するご意見と考え方

■「新たな適正配置に関する基本的視点」に関して

	意見等の概要	意見に対する考え方
1	少子化の進む中、適正配置を検討することは、児童・生徒の健全育成という観点から避けて通れない。	新たな適正配置は、できる限り望ましい学校規模を実現し、維持しつつ、各学校間の教育条件、教育水準を良好に保ち、すべての区立学校において充実した教育が受けられるように教育環境を整備することで、将来にわたり墨田の教育改革を進める上で基礎となる枠組みとなるものです。
2	学校教育の存在が、全ての面で地域の発展・活性化に影響を及ぼすので反対である。	
3	地域によって児童・生徒数が片寄っているので、長期の展望に立って教育環境の整備をしてほしい。	
4	適正配置は各学校間の格差を是正し、特色ある教育を実践するためにも必要である。	
5	充実した学校教育実現のために、早急に小規模化の解消を図る適正配置を実施することが望ましい。	新たな適正配置は、できる限り望ましい学校規模を実現し、維持しつつ、各学校間の教育条件、教育水準を良好に保ち、すべての区立学校において充実した教育が受けられるように教育環境を整備することで、将来にわたり墨田の教育改革を進める上で基礎となる枠組みとなるものです。
6	墨田の子どもの人口推移では、現行の学校数は多すぎる。40人学級を基本として学級数を決めるのであれば、統廃合が必要である。	
7	約10年前より微増ではあるが子どもの数は増えている。現状把握ができていないのではないか。	東京都の教育人口推計では、5年後まで微増傾向にあると予測していますが、東京都や国の長期的な推計では減少すると予測しています。
8	予算カットのためではない。	新たな適正配置を進める一番の理由は、小規模校の解消にあります。

■「新たな適正配置の基本的考え方」に関して

	意見等の概要	意見に対する考え方
1	9～15 学級でも良いのではないかと。中学校においては、9クラスも審議してほしい。	審議の結果、適正規模については、小学校・中学校ともに、原則12～18学級としました。子どもたちの社会性を養うためにも、一定程度の学校規模であることが望ましいと考えます。
2	小規模校では、子ども達にどのような不利益があるのか具体的に議論してほしい。	学級における対人関係や役割が固定化したり、多様な友だちとの間で異なる意見や発想を交流させる機会が少なくなります。また、集団活動を通じてお互いに協力したり、競い合うことで自らの個性・能力を伸長し、人格を形成するという経験も少なくなるなどと考えられます。
3	適正配置により予算に余裕ができるので、35	本審議会では、現行の学校教育に係わる諸制度

3	人、30人学級についても視野に入れてほしい。	を前提とし、学校規模が学級数で表されていること、教員の配当が学級数によっていることなどの理由から、40人学級を前提としました。
4	40人学級を前提とするならば、ハード面・ソフト面も考慮する必要があるのではないか。	今後の学校施設整備の指針となる「新たな学校づくり調査検討報告書」(平成16年3月策定)に沿ったものとします。
5	小規模校のプラス面、不登校児、問題行動を起こしてしまう児童・生徒の対応も考えて議論すべきだ。	これまで区内各学校において進められてきた少人数指導やT・T(ティームティーチング)等、個に応じ、個を生かすことに関する優れた実践の成果を生かすような配慮は引き続き行っていくべきと考えます。
6	小規模校を選択している保護者もいるので、小規模校のきめ細かい教育を解消してはならない。	
7	地元の小学校から中学校に安心して入学できる体制を整えてほしい。	小学校から中学校の9年間のつながりを考慮した教科指導や進路指導等の教育課程の編成を配慮することが、小学校から中学校への接続が円滑に行える利点であることから、小・中学校連携に視点をあてた通学区域について配慮します。

■「新たな適正配置の具体的方策」・「答申の実現に向けて」に関して

	意見等の概要	意見に対する考え方
1	地域のコミュニティが失われないように、地域と共に子どもを守り育てるという点を配慮した結論を出してほしい。	新たな実施計画を策定する際には、諸条件を勘案しながら具体的な検討を行っていきます。通学区域の変更など具体的な検討にあたっては、学校を持つ地域的意義を考慮するとともに、十分に保護者、地域住民等の理解と協力を得ていくようにします。
2	学校は地域コミュニティの核なので、学区域を見直して、一地域は一学校になるようにしてほしい。	
3	我が町会は二つの学校に分かれているので、一町会一学校になるのは喜ばしい。	
4	少人数学級が実施された場合、学級数が増加して、押上小学校のように特別教室をなくすことになりかねないので、将来を見据えて適正に審議してほしい。	小規模化の問題と同様に18学級を超える大規模校とならないように考慮する必要があります。具体的方策の検討にあたっては、児童・生徒数の推移や学校の存する地域特性への配慮などを勘案して計画していきます。
5	学校防災拠点会議や訓練等で長年苦勞・努力を続けてきたのに、廃校になると大地震災害が有ったときに避難所もなく、訓練も発揮不能となるので、地元として大きな不安を感じている。	「最終答申」の6 答申の実現に向けて(1)将来の課題の中に、学校は地域の避難所としての役割を持つことを盛り込みました。
6	審議会の解散後の責任の所在を明確にしてほしい。	今後、教育委員会において、「最終答申」をもとにした新たな適正配置実施計画の策定に着手することになります。

7	学校は地域の中心施設としてオープンにし、生徒も教職員も地域ももっと連携するべきだ。	墨田区教育委員会が平成16年3月に策定した「新たな学校づくり調査検討報告書」に沿った、学校の施設整備を図ります。
8	IT化に対応できる教室の拡大と均一化してほしい。	
9	実施計画における地域住民との合意事項がある場合は、約束違反しないことを答申に明記してほしい。	新たな適正配置実施計画の策定にあたってのご意見として受け止めます。
10	審議会では1校あたりの金額等が出ていたが、中間答申にはお金の話は出ていない。中途半端だ。	
11	特別学級を抱える学校への配慮や人員の確保等は緊急を要している。	

### ■「実施計画（素案）」策定に関して

	意見等の概要	意見に対する考え方
1	8ブロックということは、現在ある12中学校のうち、4校はそのまま残り8校が統廃合ということなのか。全校を廃校して新たな学校を作ることが出来ればよい。	今後、教育委員会において、「最終答申」をもとにした新たな適正配置実施計画の策定に着手しますが、その計画づくりの中で具体的に検討していきます。
2	地域と学校の間隔を考慮して、今までの通学区域を最大限尊重してほしい。特定の地域だけが切り離されることは止めてほしい。	住民基本台帳上の人数が基本になりますが、具体的方策の検討にあたっては、学校と地域とのつながりなどの諸条件を勘案しながら検討を行います。
3	最終答申後の通学区域の見直しの時には、行政側だけで考えるのではなく、地域や地域に基盤を置いている関係団体と相談して、十分納得できる形で線引き作業に入ってほしい。	通学区域の見直しなど具体的な検討にあたっては、学校の持つ地域的意義を考慮するとともに、十分に保護者、地域関係者等の理解と協力を得るようにします。
4	地域・町会との相互理解の上で活動している関係団体は重大な影響を受けるので、地域や関係団体に不合理な線引き案は止めてほしい。	新たな適正配置実施計画策定にあたってのご意見として受け止めます。
5	実施計画案を出す前に、地域・町会の現状把握や意向を尊重して、慎重に進めてほしい。	
6	三寺小学校は単学級だが伝統があり、町会全部が三寺小学校に通えるように希望する。	
7	戦後、寺島中学校創設の際に、一銭の保証も無く立ち退いた犠牲的意味に苦しむのが本音であり、廃校には反対である。	
8	実施計画によって、第三吾嬬小学校が5つの町会と共に長い年月をかけて育んできた地域の特	

8	色が壊されるかどうか、第三吾孺小学校の子ども達にとっての判断材料になる。	新たな適正配置実施計画策定にあたってのご意見として受け止めます。
9	文花中学校地域は前回の適正配置における統廃合を経験した地域であることから、地域内の特殊事情を考慮してほしい。	
10	具体的に線引きしていく上で、地域社会の合意をいかに得るかという事が重要であり、地域の利害得失が表面化した時に、その視点を最大に配慮しながら進めていくべきである。それには確固たる大義名分を準備し、大所高所から物事をまとめ得るような方策を検討して進めていくべきである。適正配置により、地域に混乱が起き、永年築いてきた信頼関係が損なわれるようなことがあってはならない。	

#### ■「学校選択制」に関して

	意見等の概要	意見に対する考え方
1	中和小学校は幼稚園・保育園が併設されていないので、近隣の小学校への入学が多くなっている。学校選択制は学校と地域の連携に逆らうことなので、学校選択制を廃止して速やかに統廃合を含めた適正配置を実施してほしい。	ご意見として受け止めます。学校選択制については、良い面、悪い面をもう少し時間をかけて検証していきます。
2	地域外の小学校へ通学する子どもは、子供会に入会せず、町会活動にも関心を示さないなので、地域の活力が低下し、地域の崩壊につながる。	
3	適正配置を進める上で、学校選択制の廃止を決定してほしい。子どもは地域で育てるのが当然であり、教育改革は一面の利だけを求めてはならない。	
4	学校選択制は先生方にしっかりした教育をしてもらうために導入されたが、結果として校舎が古いとか幼稚園が併設されていない等、先生方の力ではどうにもならない理由で児童数は減少し、子どもの成長に大切な切磋琢磨が損なわれている。	
5	親の立場では大規模校や残る可能性が大きい学校へ通わせたいと思い、学校選択制を行使している人も少なくない。大規模校と小規模校に分かれる事に拍車がかかったのではないか。	

6	通級学校を持つ学校と持たない学校では、平等に学校選択が行われていない。	ご意見として受け止めます。学校選択制については、良い面、悪い面をもう少し時間をかけて検証していきます。
7	学校選択制の導入は、学校と地域の連携という公立学校の大きな役割を分断している。	
8	学校選択制の導入により「特徴ある学校づくり」を推進しているが、公立学校はどここの学校で勉強しても大差が無いという安心感を与えてきたのだから、私立校のように「特徴ある学校づくり」を押し付けても無理である。	
9	学校選択制の真の目的は、今回の適正配置を円滑に実行するための前段階ではなかったのか。	
10	適正配置以前に、なぜ学校選択制が採用されたのか納得出来ない。小さな6歳の子どもの交通の安全、他人による危険に対する配慮など、どのように考えたのか。	
11	学校は好きなところを選べるが、友達がバラバラになってしまう。	
12	ロコミによる過大あるいは過小評価により、学校の子どもの数が極端な増減を余儀なくされている。	
13	公立学校でありながら、学校間のレベルの差が非常に大きくなってしまう。	

#### ■「その他」

	意見等の概要	意見に対する考え方
1	寺島中学校の7時間授業は続けてほしい。	これまで区内の各学校において実践されてきた優れた取り組みについては、その成果を生かすような配慮は引き続き行っていくべきと考えます。
2	墨田区の長期的な学校運営や教育に対するビジョンが全く見えてこない。教育改革や多様なニーズに対応することができなくなるのではないか。	平成18年度、新たな区の基本構想を踏まえて、学校教育が抱える様々な教育課題に適切に対応していくために、「すみだ教育指針」の改定を予定しているが、その中で教育内容の改善について検討する予定です。
3	廃校後の跡地利用の計画案が提示されている方が、理解できて話し合いに応じやすいのではないか。	適正配置により生じる学校跡地については、新しい基本構想に基づく新しい「墨田区基本計画」づくりの中で検討していきます。
4	前回の答申における吾嬭三中と曳舟中の統合の際に、陸上競技場を建設するという話で狭い校	ご意見として受け止めます。

4	地に新校を建設することに同意したが、約束を果たしていない中、新たな答申を出すことは背任行為に近い。	ご意見として受け止めます。
5	子どもの安全確保には地域の目が必要であり、小学校は地元の学校で学習するのが望ましい。	
6	学校選択によって児童の通学校が交差していて、登校班とは別行動の児童がいるので、児童の安全に関して難しい対応が予想される。	
7	登校時は集団登校しているが、凶悪事件が頻発しているので、下校時も集団下校してほしい。それが無理なら、上級生の終業時間まで校内で宿題や予習・復習をして待てば、兄姉や近所の上級生と帰ることができる。先生が忙しければPTAのボランティアを募ってはどうか。子どもの安全を確保する方策を検討してほしい。	
8	教師の質を高めるために、研修等に参加できるように教師の数を増やし、適正クラス数にして副担任制度を全ての学校で実施し、きめ細かい指導をしてほしい。	
9	日本語がよく分からない子どもや保護者に対し、通訳派遣や日本語ボランティアを実践しているが、近隣住民の方や元気な高齢者の方やPTA保護者の方に協力を呼びかけてみてはどうか。	
10	特色ある学校教育を活性化・浸透させるために、研究授業や教師の研修会を更に実施したほうがいい。	
11	教員の指導力を問題にするだけでなく、教育条件の整備を優先して、墨田区の学力向上と子ども達の将来に投資すべきだ。	
12	壊してしまったものの復元は、それ以上の費用が必要である。合理性と数合わせ、辻褄合わせとするのではなく、より深い視野での町づくりを考えてほしい。	
13	墨田区の公立学校へ通っている子ども達や保護者が不安に思うのではなく、安心して信頼できる教育体制や学校運営を目指し、開かれた墨田区であることを望んでいる。	
14	審議会の委員の選出にあたっては、もっと多方面から多数入れて、真剣に考えているなら誰でも	

14	審議に加わることができるような体制にしてほしい。	ご意見として受け止めます。
15	地域や家庭との連携も視野に入れた施設や少子化に対応した共同の施設なども必要だ。	
16	教師のレベルを均一にアップし、学校の特色を生かしながら一定の水準を保ってほしい。	
17	生活指導専門の先生を1校に1人配置してほしい。	